

公益財団法人 東京都農林水産振興財団

令和2年度 第5回臨時評議員会議事録

日時：令和3年3月29日（月曜日）

15時30分から

場所：(公財) 東京都農林水産振興財団

立川庁舎講堂 (WEB会議形式併用)

評議員の現在数 15名

評議員出席者 9名

本人出席 9名

城田 恒良	青山 俊	渋谷 金太郎	小暮 実	坂本 義次
名倉 衡	小金井 賀	渡邊 俊夫	松川 敦	

欠席 6名

鈴木 栄子	木村 康雄	福田 珠子	渡辺 昭	関 恒美
前川 煙男				

監事の現在数 2名

評議員会出席者 2名 大森 淳子 傳田 純

欠席 0名

議長 小金井 賀

議事録署名人 渡邊 俊夫 松川 敦

決議事項

第1号議案 定款の変更について

1 開会

(猪口管理課長)

評議員会開会を宣言する。

2 定足数報告

(猪口管理課長)

評議員現在数 15 名で、評議員の本人出席 9 名であり、当財団定款第 23 条に定める定足数を充たしているので、本評議員会は成立していることを報告する。

3 開会挨拶

(岩瀬理事長)

評議員会の開催にあたり、以下のとおり挨拶を述べた。

本日はご多忙の中、第 5 回臨時評議員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日の評議員会は、新型コロナウィルス感染症の感染拡大防止の観点から、WEB 会議の形式を併用して開催させていただきます。

さて、新型コロナウィルス感染症については、今月 21 日に緊急事態宣言が解除されました。しかしながら、感染再拡大への懸念など未だ収束が見えない状況にあります。外出自粛や営業時間の短縮により、外食産業が厳しい状況に置かれる一方で、消費者の皆様からは、都内産の新鮮かつ安全な農水産物に対する関心の高まりを、また、生産者・事業者の皆様からは、例えばインターネットの活用など新たな販路の確保やそれに合わせた商品開発へのニーズの高まりを強く感じております。

林業分野においては、多摩産材の需要は堅調に推移しておりますが、長期的な視点で見ると景気の落ち込み等による需要減少を危惧しております。

こうしたコロナ禍の状況において、財団は引き続き、都や関係団体の皆様との緊密な連携の下、消費者・生産者・事業者の方々のニーズに応えるべく、積極的な事業展開を図り、東京の農林水産業の振興に努めてまいる所存であります。

その一環としまして、本日の評議員会では、当財団の定款変更について、ご審議をいただくこととしております。農林水産業の振興に向けた様々なニーズに対して、財団がより柔軟かつ的確に対応していくよう、また、財団運営をよりわかりやすいものとしていくよう、定款の条文、そして会計区分を変更するものでございます。詳細は、この後、事務局長よりご説明申し上げます。

また、本日議事の後、報告事項として、トウキョウ X や東京うこっけいを生産する青梅畜産センターの再編整備の状況について、東京型スマート農業研究開発プラットフォームの設立について、それぞれ担当の課長からご説明申し上げます。

評議員の皆様には、どうぞ忌憚のないご質問とご意見をいただければと存じます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

4 議長選任

(猪口管理課長)

議長は当財団定款第 22 条により評議員の互選となっているので、推薦を求めたところ、事務局一任の声があり、異議がなかったので、事務局として本日の議長を小金井

評議員にお願いしたい旨を発言。小金井評議員はそれを承諾した。

5 議長就任

(議長)

小金井評議員が議長を務める旨を発言し、議事進行に協力を求め議長となる。

6 議事録署名人選出

(議長)

当財団定款第 27 条第 2 項により、議長の他 2 名の議事録署名人の選出を問うたところ、議長一任の声があり、渡邊評議員と松川評議員を指名、両評議員とも承諾する。

7 議事

(議長)

これより議事に入る旨発言する。第 1 号議案定款の変更について理事長の説明を求める。

(岩瀬理事長)

第 1 号議案定款の変更について、食品技術センターの管理運営に関する規程の削除、また、第 3 条の「目的」、第 4 条の「事業」を変更する旨を説明する。詳細は事務局から説明する旨発言する。

(渡辺事務局長)

定款の変更について、議案書、説明資料により説明する。

(議長)

質疑を諂ったところ、異議なしの声があり、第 1 号議案は原案どおり可決承認する旨を宣する。

(議長)

本日の議事は終了した旨を宣する。

(議長)

最後に、意見・質問等を求めたが、特になかった。

(議長)

本日の評議員会への協力に感謝を述べ、議長を降りる。

8 閉会

(猪口管理課長)

閉会の前に、最近の財団の動きを事務局より報告する旨述べる。

(渡辺事務局長)

青梅畜産センターの再編整備状況について、東京型スマート農業研究開発プラットフォームの設立について、それぞれ担当から報告する旨を述べる。

(平野事業課長)

青梅畜産センターの再編整備状況について、資料に基づき報告する。

(宮崎スマート農業推進室長)

東京型スマート農業研究開発プラットフォームの設立について、資料に基づき報告する。

(猪口管理課長)

各担当課長・室長からの報告及び会全体について質疑を諮ったところ、青山評議員から意見・要望があった。

(青山評議員)

ご報告ありがとうございました。どちらも大変心強い形で事業が進んでいると思うので大変喜ばしく思います。昔の畜試、青梅畜産センターもかなり整備されているということで心強く思いました。私はここにも、大昔の話ですけども、何度か泊めていただいたこともあるのですけれども、その頃聞いた説明も鮮明に覚えています。畜産に限らず農業全般もそうなのですけれど、そして東京都に限らず全国の自治体が、農業とか畜産だとかについて色々と、研究をして、技術開発をして、それを農業者だとか畜産事業者に伝えていったということが戦後の日本の農業や畜産の生産性向上に大きく寄与しているのだと思います。そういう意味では、これからもますます国際環境等で競争が厳しくなっていきますので、ぜひ財団では、この種の投資を惜しむことなく大いに実力を発揮していただいて、農業者だとか畜産事業者に対して技術研究の成果を伝えていって欲しいということを要望したいと思います。よろしくお願ひします。

(岩瀬理事長)

大変心強いご発言をいただきまして、ありがとうございました。畜産試験場、ちょうど今年で 100 周年ということで、今お話がありましたような実績を重ねてきた訳でございますけれど、私どももいたしましてもこの 100 周年というのは通過点であつて、またこの先 100 年役に立つ試験場でありたいというふうに考えております。そのために財団としては、力を合わせてしっかりとやっていきたいと思っておりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願ひいたします。

(青山評議員)

ありがとうございます。ぜひよろしくお願ひします。

(猪口管理課長)

報告事項及び全体を通しての意見・質問を求めたが、特になかった。

(猪口管理課長)

以上をもって、財団令和 2 年度第 5 回臨時評議員会を終了する旨を告げ、閉会する。

以上、相違ないので、記名、捺印する。

令和 3 年 3 月 30 日

議長 小金井毅

議事録署名人 渡邊俊夫

議事録署名人 松川敦